

令和8年全国広報コンクール

「広報なばり」が総務大臣賞を受賞

全国一位



「子育て支援や母子保健、地域福祉の現場で、日々親子に寄り添う関係機関や地域の皆さんの取組に対しても大きな評価をいただいた」と、記者会見で笑顔を見せる北川市長（編集担当者と）

令和8年全国広報コンクールで「広報なばり」が、広報紙（市部）部門で全国1位となる総務大臣賞を受賞しました。評価されたのは、特集「頼ってほしい」を掲載した令和7年10月号。市内での分娩取扱の再開がすぐには難しい状況にありますが、今ある支援や人のつながりに目を向けてもらうことで、不安の軽減につながってもらいたいと考え、編集しました。サービズ内容を事例を交えて紹介しながら、子育て支援に携わる担当者や地域の皆さんの「私たちが頼ってほしい」という熱い思いに迫っています。



受賞号

改めて読み返してほしい、令和7年10月号

お産を巡る現状や、母子を支援する制度や仕組み、そして、妊娠・出産・育児に寄り添う人たちの思いに迫っています。

と高く評価されました。今後も、市の課題や魅力を市民の皆さんと共有し、より必要とされる広報紙を目指します。なお、同コンクールでは、市のシティブロモーションの取組も、広報企画部門で入選を果たしました。これら二つの受賞を励みに、引き続き、まちの魅力を全国へ発信していきます。

早産となり、まず浮かんだのは助産師の林さんの顔でした

頑張り過ぎて笑顔を忘れる前に私たちを頼ってくださいね



助産師

林 みち子さん

4月に第2子を出産

中谷 尚子さん

(咲結ちゃんと)

特集「頼ってほしい」——その後の物語

第2子が生まれ、ますます頼りたい

昨年の特集「頼ってほしい」で取材にご協力いただいたお二人を再び訪ねました

「顔の見える関係」が、何よりの支えに

「名張には頼れる専門職がたくさんいて、どこで産んでも大丈夫だと思える」。昨年の特集でそう語ってくれた中谷尚子さんは、この4月、奈良県内の病院で無事に長女を出産。思いもよらず、大変な早産となったそうです。

「そんな時、真っ先に頭に浮かんだのは助産師・林さんの顔でした」と中谷さん。出産後、林さんから、「赤ちゃんは、お母さんを安全に守れるタイミングと方法を選んで、自分もお母さんも傷つかないように産まれてきたの。あなたにとって『安産』やったのよ」と優しく声をかけられ、「本当に気持ちが救われた」と思い返します。

インターネットの情報も参考に中谷さんですが、「第2子が生まれ、ますます専門職の皆さんを頼っていきたい。直接顔を見て話せる関係が、子育て中の私にとって何よりの支えですね」と笑顔を見せてくれました。

生きているだけで「百点満点」。一人で抱え込まないで

「育児は理想通りにいなくて当たり前。もう、生きているだけで百点満点です」。昨年の特集で多くの反響を呼んだ助産師・林みち子さんは、改めてそう語りかけます。

「SNSなどの情報に振り回されて、笑顔を忘れてしまうお母さんが増えています。でも、正しさよりも大切なのは『楽しさ』。一人で頑張りすぎず、いつでも私たちに頼ってください。育児を不安なく楽しめるようサポートするのが、私たちの役割ですから！」

「一生相談してや！」——名張には頼れる仲間がいます

今回の「全国一」の知らせに、林さんは「名張の支援者みんなの頑張りが認められた気がして誇らしい」と顔をほころばせます。特集掲載後、かつてサポートしたお母さんたちから「広報紙読んだよ」と次々に連絡が届いたんだそう。

『「子どもがもう小学生だけど…」という相談も受けました。子どもがいくつになっても悩みは尽きないもの。「一生相談してや!」と伝えています。』

あるお母さんの母子手帳に「林さんに話を聞いてもらって、すっきりした」という言葉をみつけ、嬉しさで涙ぐんだこともあるという林さん。「無いものばかりに目を向けるのではなく、今ある温かなつながりを見てほしい。名張には、あなたを助けたいと思っている仲間が、あちこちにいますから。』

「一人で悩まないで、頼ってほしい」。その想いで結ばれる絆こそ、名張の自慢としていきたい子育て支援のあり方です。



名張の子育て